

令和3年度入学式 式辞

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます、宮崎県立看護大学の校庭はまばゆいばかりの緑でおおわれる季節になりました。本日、新たに学部入学生**103**名、大学院博士前期課程**1**名、博士後期課程**2**名、別科助産専攻**15**名、計**121**名の皆様をお迎えし、入学式を行うことができますことを、教職員一同、大変うれしく思います。

皆様が入学された本学は、平成9年4月に九州で初めての県立看護大学として開学し、平成13年度に大学院博士前期課程、平成17年度に博士後期課程を開設しております。また、平成29年度には別科助産専攻を設置し、この3月までに総勢**2400**名の卒業生が全国に羽ばたき日々の看護を担い、また看護学の発展と看護教育を担う中核的人材として活躍しております。

今、皆さんは、将来、看護師、保健師、助産師になることを、また、看護教育や研究に携わることめざし、期待に胸を膨らませておられることでしょう。

一方で、看護学とは何を学ぶのだろうか、また、どのように研究課題に取り組むべきなのか、友人はできるだろうか、さらには、新型コロナウイルスの影響で、授業や学生生活はどのようになるのだろうか等、不安に思うことも多いのではないかと思います。

新入生、特に学部生の皆さんには、新入生オリエンテーションで、まず自分の健康を守り、他の方への感染を防止することを改めて学ぶ機会を準備しています。

なお、今日、この入学式も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、このような3蜜を避ける形を取らせていただきました。

さて、国の緊急事態宣言は解除され、ワクチンの接種も始まりましたが、変異ウイルスの出現など新型コロナウイルス感染症の先行きは未だ不透明な状況です。

今、全世界の人々が叡智を結集して、この未知のウイルスに打ち勝つ努力がなされています。

人類はこれまでも未知のウイルスによるパンデミックに直面し、それを乗り越えてきました。

人類も様々なウイルスも、この地球上に存在するわけで、新型コロナウイルスについても、共存するすべを模索していかなければならないと思います。

ここで、本学の看護教育の基本理念についてお話しします。本学の教育は開

設当初から、フローレンス・ナイチンゲールの看護論を基盤としております。

ナイチンゲールは、生きとし生けるものは根源的に自然の一部であり、人々に病をもたらすウイルスも、また、病を持った人間やその看護をする人も皆、自然の一部であることを大前提としています。

このため、人のなすことである看護も、自然の摂理、自然が備えていることを踏まえ、組み立てなければならない、といった自然観を土台とし、看護を論じています。

この自然観は、今、まさに尊重されるべき時にあると思います。

世界に人の命が存在し生活がある限り、それを守る看護は存在します。

コロナ禍の中で、最近「エッセンシャルワーカー」という言葉を耳にしますが、看護する者は、常に人に寄り添い、人々の身近でケアをし、人々につながるものであり、日々の生活を維持していくためには、なくてはならないエッセンシャルワーカーです。

3密を避けることが重要とされる昨今ですが、そのことを重視しつつも自然が備えている力に目を向け、人の身近にある看護を探究し、また、自然を大切にする社会のあり方を、皆さんと共に発信していくことをお伝えし、「私の式辞」といたします。

令和3年4月5日

公立大学法人宮崎県立看護大学 学長 平野かよ子